

## 商学部における特色ある学部教育の補助「国内実態調査」 報告書

テーマ：地域社会の持続・活性化

科目名：演習Ⅰ・Ⅱ

担当教員：平澤 哲

調査先：北海道函館市役所及び地域企業・非営利組織

調査期間：2025年9月8日(月) ～ 2025年9月11日(木)

参加学生数：1年生 名 2年生 名 3年生 10名 4年生 名

### 調査の趣旨（目的）

北海道函館市の地域企業・非営利組織を対象にフィールド調査を実施し、地域社会の持続・活性化の実態を明らかにします。こうしたフィールド調査の経験を通じて、社会的課題の解決のみならず、定性的な調査方法の技法を学ぶことを目的とします。

### 調査結果

今回は、地域活性化と地域の持続という社会的課題に対して取り組んでいる複数の組織を訪問調査し、その先進的な取り組みを学ぶことを目的としました。第一には、通常は廃棄されてしまう「規格外野菜」を活用して、人気商品を製造・販売しているカドウフーズ株式会社と、同社に規格外野菜を提供している岩崎農園を訪問し、フードロス削減に貢献するユニークな取り組みについて質疑を通じて学習しました。本来は廃棄されてしまう野菜を、価値のある商品に生まれかえるための貯蔵・加工技術、商品開発の努力、その基盤にある経営理念など、様々な側面を学ぶことができました。特に、地域活性化や食材の有効活用に向けて真剣に取り組まれている姿が印象的でした。また、北海道の農業に触れるのが初めてだったため、技術の先進性や様々な設備に対して、驚くことが沢山ありました。第二には、地域の持続化をテーマにして「函館市中学学習支援事業」について調査しました。最初に、函館市保健福祉部の職員の方々から制度の概要、子供の学習・生活支援事業の背景を含めて体系的なご説明をしていただきました。その後、本制度を実施している学習塾と地域包括支援センターを訪問し、責任者の方々のお話を伺うことができました。こうした中で、当事者に寄り添う姿勢や、顔の見える信頼関係の構築が極めて重要であることを学びました。また、こうした訪問調査でお会いした全ての方々は、真剣に仕事に向き合い、ご自身の使命を熱心に語られる姿が印象的でした。今回は、働く姿勢や意義について学生たちが考える貴重な機会になりました。調査で収集したデータを帰納的に分析することにより、地域社会の持続・活性化について新しい発見や示唆を導き出せるように研究を進めていきます。